

## 2014 アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト 報告書

日本学校名 [ 金沢星稜大学 ] 担当教諭名 [ 清水 和久 ] ( 星稜ジャンプ 国際スマイルキャラバン )  
 交流相手国 [ フィリピン ]  
 海外学校名 [ Mindanao Kokusai Daigaku ] 担当教諭名 [ Karina Melissa I. Cadiogan ]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教 科	単 元 名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	国際ボランティア講座	開発途上国への支援の方法と共存	20
	専門ゼミ	総合的な学習の時間の設計	10
	課外		10

■作品について教えてください。

題 (テーマ)	日本とフィリピンの現在・過去・未来
絵に込めたメッセージ	両国の学生同士の直接交流から、互いの国の伝統文化や自然のよさを体感する中で、過去の両国間の不幸な戦争をスタートとして、ダバオ市のジブニーと金沢市まで開通した新幹線「かがやき」を中心に置き、左右には未来の貿易や医療、教育や交通の形を具現化させることで発展的な未来の関係を描いている。
	

■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・フィリピン＝バナナというイメージしかなかった日本の学生が、国際交流を契機に相手国の歴史を知り、相手国を訪問する中で、互いの人間的な魅力を理解し、互いの文化のすばらしさを学んだ。最後に壁画を完成させたことで国際協働作業のすばらしさを実感できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生はLINEや FACEBOOK で個別につながることにより深くつながっていったためフォーラムは学生には必要とされなかった。</li> <li>・教育系の学生であるので次年度はフィリピンの小学校の交流のサポートも同時に行わせたい。</li> <li>・壁画の他にも共同調査を組み合わせることが可能</li> </ul>

■アートマイルに取り組む前と比べて相手国や世界に対しての意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
<ul style="list-style-type: none"> <li>・フィリピン学生の明るさや、表現力の豊かさ、日本語習得にける学習意欲の高さに驚かされた。また英語の必要性を改めて感じていた。</li> <li>・フィリピンの学生は日本人をまじめだが冷たいと感じていたようであるが、壁画の発想力の豊かさに驚いていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・直接交流によりフィリピンの学生の1人1人の明るさや表現力のすばらしさを感じた。</li> <li>・もっとSNSを使うことでもっと深い交流プロジェクトが可能であると感じた</li> <li>・生きた英語を学べるチャンスであると感じた。</li> </ul>

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
自己紹介	1学期	・フィリピンの学生6人が本学に短期留学。学生と模擬的にアートマイルの構図を考えた。	これから行うアートマイルの活動の流れを理解できた。英語の必要性を感じた。フィリピンの学生のダンスや歌などの表現力の高さに驚いた	国際ボランティア講座
テーマ学習	1学期 9月	・開発教育の教材「マジカルバナナ」でフィリピンの抱える問題を学ぶ ・日本との過去の歴史を学ぶ ・TV会議 相手国訪問	・フィリピンにおける貧富の差に驚く ・物をもっていないことが不幸ではないことに気づく ・子供の笑顔のすばらしさを知る	国際ボランティア演習 集中講義
構図決定	10月 11月	・外国で体験したことを学内で発表 ・テーマの相談 ・学内でのフィリピン理解のための講演会の開催	・フィリピンの美しい自然を描きたい ・自分たちのできることを考える ・より多くの学生へ現状を伝えたいという思いを持つ	専門ゼミ
壁画制作	12月	・テーマ、構図の話し合い	・壁画のテーマ:相手は「自国の発展した未来」、日本は「フィリピンの自然」と分かれたため両方の案を取り入れて提案した。	課外
鑑賞・振り返り	2月	・フィリピンが完成壁画の紹介ビデオの作成 ・鑑賞会を行う ・6月に相手が本学へ短期留学予定	・大学は春休み中のため一部の学生のみで鑑賞会を行う。作品のできあがりに驚いていた ・大学内に掲示する	課外

■学習目標(つけたい力)と成果(ついた力)について教えてください。

「目標」先生が指導に当たって重視したことをABCで記入 (A:特に重視した B:重視した C:特に重視しなかった)

「成果」先生の手応え (5:とても身についた 4:身についた 3:どちらともいえない 2:あまり身につかなかった 1:身につかなかった)

学習目標・つけたい力	目標	成果	成果についてそう感じた場面・理由
自文化の理解	B	5	金沢について改めて調査を行ったから
異文化の理解	A	5	実際におとずれるので食べ物、観光地などをよく調べた 日本との歴史についても初めて知ったことが多かった
コミュニケーション力 (説明・共感・英語)	A	4	実際に会うので英語を勉強しだした SNSをつかってとにかく連絡をしていたから
情報活用能力 (情報収集・発信)	A	4	金沢の紹介をおこなっていたから
人間関係をつくる (学級内・交流相手)	B	5	実際に会うことが前提でパートナーを決めたので真剣
協働する力 (役割分担・協力)	B	4	1年から3年までいたので互いに得手不得手をカバーしていた 特に絵をかける学生は貴重
学習を追究する意欲	A	5	実際に行くので真剣に日本を理解してもらおうと思っていた。 現地で日本紹介のプレゼンもするため
表現力 (伝えたいことを絵で表す)	A	5	実体験があるので絵に説得力があった
作品を鑑賞する力	B	3	全体ではまだできなかったため